**町田の避難施設を
より良くシリーズ②**

命と健康が守られる避難施設に

～災害から助かった命を守るには～

2026年7月27日に発生した熊本地震では、避難所生活の様子も大きく報道されました。床にマットを敷いて休む方々、冷たい食事で過ごす方々、プライバシーの確保も難しい環境。その光景を見て、私は10年前の熊本地震を思い出しました。

避難所で発生する3つの課題 ➡ **避難生活が長引くほど、
心と身体への負担が大きくなります。**

①冷たい食事・栄養の偏り



②雑魚寝に近い就寝環境



③プライバシー不足



2016年熊本地震の分析によると、約230名に達した災害関連死の大きな要因は、「**地震や余震への恐怖による心身の負担**」や「**避難所生活による心身の負担**」であることが分かっています。つまり、災害関連死の背景には、地震そのものの被害だけでなく、その後の避難生活が与える心身への負担があるのです。被災された方々の心身への負担を少しでも減らし、市民の命と健康を守るためには、避難施設の環境向上が重要だと考えます。



重太郎

せっかく助かった命が、その後の避難生活の中で失われてしまう。
そんな悲しい出来事を減らせる取り組みを研究し、提案します。



2026年8月号-1
No.80

おぜき重太郎 プロフィール

埼玉県蕨市生まれ茨城県稲敷市育ちの49歳。早稲田大学卒。ものづくり（工場経営）をしながら電気通信大学を卒業。現場を知り技術を大切にする経験が市政での分析力や実行力の基盤に。2014年、町田市議会議員に初当選。建設常任委員長 等を歴任し4期目の現在は議会運営委員長に就任。“今できることを全力で”を信条に町田の救急医療の強化などの公約実現、そして市民の皆様にとって一番身近な議員を目指し日々奮闘中。

◎助かった命を守るために

日本と同じく災害大国といわれるイタリアでは、被災者の健康と尊厳を守るため、避難生活に必要な環境を早期に整える仕組みが整備されています。
また、日本でも「トイレ・食事・ベッド」を早期に整えるＴＫＢ４８の考え方が広がってきています。

世界の先進事例：イタリア

避難所ユニット（コンテナ）やキッチンカーを被災地に運び、温かい食事やベッドなど快適な避難環境を提供



目指すべき姿：TKB48

- **T トイレ** 清潔なトイレ
- **K キッチン** 温かな食事
- **B ベッド** 快適なベッド

48時間以内に 整えることを目指す

こうした取り組みは、町田市がこれから目指すべき姿だと考えます。まずは温かな食事の提供や雑魚寝ゼロなど、避難生活の負担を減らす取り組みが大切であると考えます。

命と健康が守られる避難所へ

町田市内の避難施設
できるところから改善を！

- ☑ 雑魚寝ゼロを目指す
- ☑ 温かい食事の提供を
- ☑ プライバシーの確保





重太郎

すぐに実現できることばかりではありませんが、一歩ずつでも前に進め、せっかく助かった命を守れるよう取り組んで参ります。

おぜき重太郎の“こんな相談ありました”

おぜき重太郎は、町田市議会議員として、日々寄せられるご相談に真正面から向き合います。町田市に限らず、国や東京都を含めた行政に関するご相談についても丁寧に受け止めます。

時には制度の壁がありすべてが実現できるわけではありません。できない場合は理由をできる限り明確にお伝えし、時間がかかっても、別の解決方法がないかを考えます。

おぜき重太郎の“こんな相談ありました”では、実現したケースばかりでなく、実現に至らなかったケースも含めてお届けします。相談を通じて見えてくる地域や制度の課題を皆様と共有します。

自由民主党・日本維新の会会派は国政連立の強みを市政に生かし実行力と実現力で町田の課題解決に取り組む政策会派です。

発行：自由民主党・日本維新の会
連絡先：〒194-0211　町田市相原町879-4　担当：おぜき重太郎
Mail: 10tarou0923@gmail.com　Tel: 090-5751-0482